

# 「できるときに できることから」

## ～ 地域ぐるみで学校を支援する 旭小学校地域支援本部 ～

岡山県美咲町立 旭小学校  
地域支援本部コーディネーター 飯田純子

### □美咲町立旭小学校の紹介

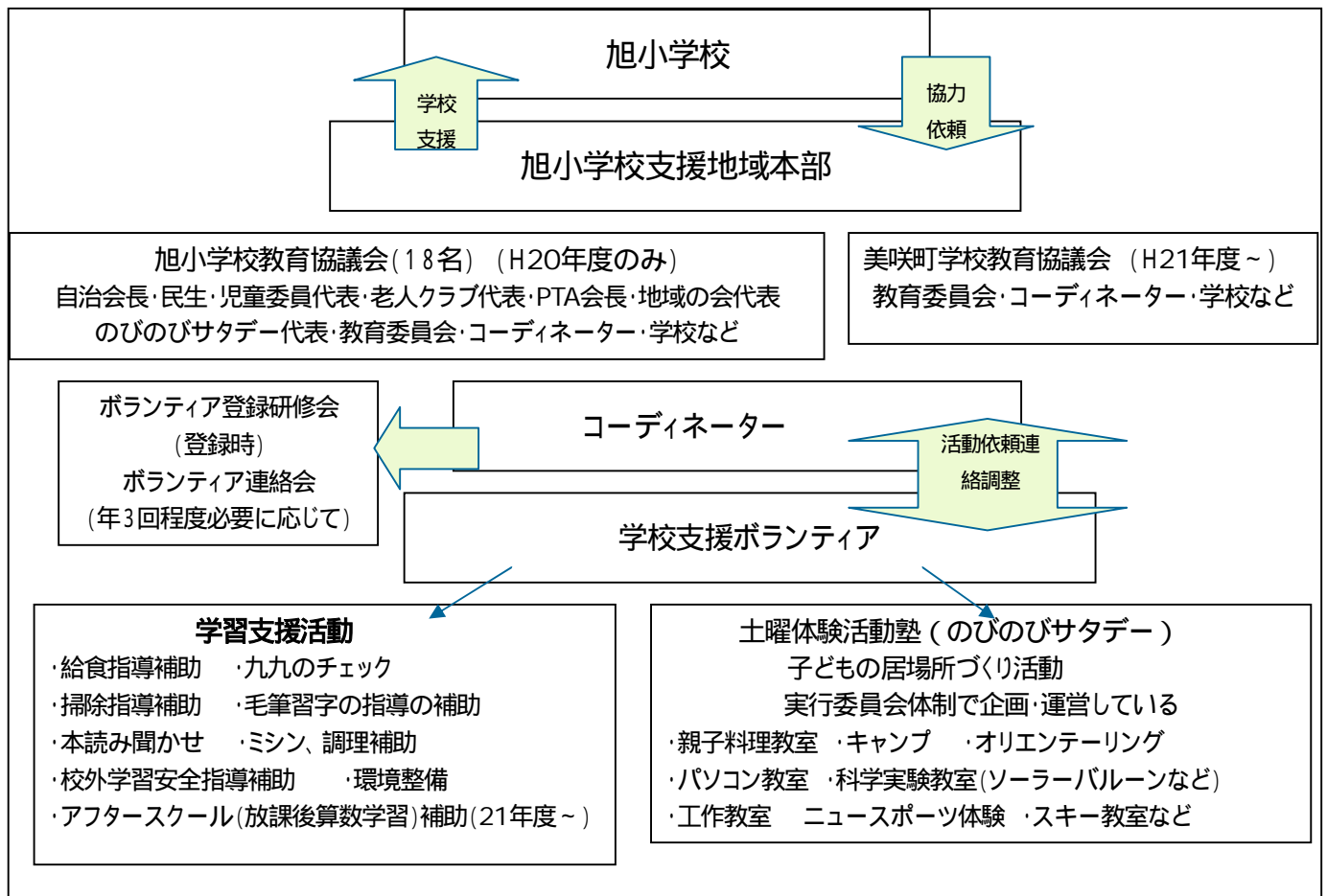
- ・岡山県のほぼ中央部久米郡美咲町（旧旭町）の自然いっぱいの旭川沿いにある（約1300戸）
- ・平成4年4月1日に旧旭町の5校の小学校が合併して誕生した
- ・山間部が多く過疎化も進み児童数も年々減少して現在125名 8学級
- ・児童の約90%はスクールバス通学
- ・保護者、地域は学校に協力的である



### 取組の概要

生きた知識や経験、得意技能などを持った保護者や地域の方々に、旭小学校の学習活動の支援者として協力を得て、多彩で活発な教育活動の展開と魅力ある学校づくりを目指すための取り組みです。学校からの学習支援ボランティア依頼を受け学校と地域とのつなぎ役・調整役のコーディネーターが登録ボランティアを実際の学習の場に配置し活動を行っています

### 旭小学校支援本部概要図



## 1. 取組をはじめた経緯

- ・学校の中の様子が伝わってこない中で学校への関わりが保護者以外は希薄になっていた。
- ・年々変化していく社会情勢に伴って子どもたちの様子も大きく変化していることへの理解・認識不足からおこる多様なトラブル、いろいろな特性をもった子どもたちがいる中で起こってくる学習、クラス運営での課題・問題が数多くおこってきた。そのような中でも学校のことは学校だけで解決すればよいという意識が多数あった。が、教員を含めた複数の人（地域の方）によって、知恵を出し合い対応できる体制づくりをすすめようと考えた。
- ・子どもの居場所づくり活動など活動を地域で自主的に始めており住民参加の基礎ができていた。

### 【 子どもの居場所づくり活動（土曜体験活動塾の活動）H14年度からの取り組み 】

#### 土曜体験活動塾運営の特徴

- ・実行主体はのびのびサタデー実行委員会（保護者、元教員、保護者OB、地域住民などで構成）だが、地域の各種団体、住民の協力で月1回（年間10回程度）開催している
- ・旭地区では自分たちの子どもたちが学校を離れても学校に関する土台ができています



「夏休み工作を作ろうの様子」



「地元食材を使っでの豆腐づくりの様子」

## 2. 取組の進め方

- ・第1回旭小学校教育協議会（H20年8月4日（月））を開き地域の各種団体代表者、学校、教育委員会の方々に事業の説明、協力をお願いし、支援体制づくりをすすめた。
- ・地域住民（保護者含む）に広くボランティア参加を呼びかけ活動への協力を求めた。町広報紙への募集チラシ折込。（1300部）地域のサークル、公民館活動などの場面で参加の声かけ活動。（校長、コーディネーター）
- ・地域の教育力・人材を活かした活動と地域全体で学校を支援し子どもの育ちに関っていく活動の基礎作りととらえあらゆる場面での広報活動。（コーディネーター）



第1回旭小学校教育協議会の様子

## 3. 取り組み開始後の学校の様子

- ・職員会議、職員研修などの機会に事業についての説明や取り組み方について共通理解のもと実施していった。校長先生のリーダーシップで様々な場面でボランティア活動を行うことが出来た。
- ・毎日のようにボランティアさん（地域の方）学校の中に入っていくことで、学校の中に良い緊張感ができ、教職員の意識が「情報を共有する」方向に向いてきた。
- ・子どもたちは地域の大人の人と会話でき、地域のことをより深く知り関るきっかけ作りの場となってきた。

## 4. 地域の反応

- ・子どもたちと関るボランティア活動に喜びを見出した方もおられる一方、ボランティアに頼る先生方の力量を案ずる声もあった。
- ・ボランティア登録など協力的に受けとめる方が多く、活動の提案もいただく場面がある。

## 5. 実際の活動の様子



3年生算数単元「長さ」指導補助



5年生 家庭科ミシン 指導補助



ボランティアルームでの  
先生との打ち合わせの様子



お弁当の日のなかよし遊びの様子



3年生書写の補助の様子



2年生「九九」の補助の様子

### 今年度より新たな取り組み

- 「アフタースクール」(補助教材を使用した習熟度別学習)
- ・放課後スクールバス待ち時間約40分間を利用した算数学習
- ・4年生以上の希望者 どんどんコース・ゆっくりコース(6教室)
- ・毎週月曜日3:40~4:20まで(年間25回)
- ・10名のボランティアでコース別に担当を決め指導補助(プリント・教材採点、声掛け)
- ・アフタースクール指導のための勉強会(見直しと改善)(教師とボランティア)を開催しともに学ぶ姿勢を確認する



アフタースクール打ち合わせの様子

## 6. 学校支援ボランティアの活動分野と活動状況 一覧 (H20年度)

8月	事業数	1
	人数・男	6
	人数・女	5
9月	事業数	25
	人数・男	
	人数・女	105
10月	事業数	38
	人数・男	21
	人数・女	103
11月	事業数	39
	人数・男	4
	人数・女	107
12月	事業数	34
	人数・男	9
	人数・女	111
1月	事業数	17
	人数・男	14
	人数・女	54
2月	事業数	21
	人数・男	
	人数・女	83
3月	事業数	16
	人数・男	5
	人数・女	63
合計	事業数	191
	人数・男	59
	人数・女	631

### □ 先生の感想

- ・ミシン指導など一人では関れない部分があるので補助に提供していただくととても助かった
- ・よく出来たねなど子どもたちに声をかけてくださるので子どものやる気につながっているのを感じる
- ・給食・掃除指導では(週2回)子どもたちが自然な形でボランティアさんを受け入れており意見も素直に聞き入れているようだ。ここでの指導がきっと家庭にもつながっていくと思う
- ・九九では15時間お世話になった。子どもたちの学習意欲が上がり九九の定着度もよいのではないかと思う
- ・生活科での安全面での補助は助かった
- ・授業前の打ち合わせに時間がなかなかとれないのでボランティアさんが戸惑う場面があった
- ・授業後の意見交換の場を設定する時間をもっと取りたい

### □ ボランティアさんの感想

- ・学校の様子がわかって安心したが、先生方の苦勞もよくわかった
- ・楽しく参加させてもらっている
- ・普段関れない部分での活動なので関ることに喜びを感じている
- ・子どもたちとふれ合えるのが良い活動だ
- ・自分たちが授業の邪魔になっていないかと心配している
- ・保護者の反応がとても気になるので保護者に向けて現状を知らせて欲しい
- ・先生との事前の打ち合わせの時間を作って欲しい

## 平成21年度 学校支援ボランティア登録者一覧 (H21.6月現在)

ボランティアの内容	性別	保護者	地域の方	計	男女別計
学習支援	男	0	5	31名	5名
	女	10	16		26名
土曜体験塾	男	9	4	15名	12名
	女		2		3名
計	男	19	9	46名	17名
	女		11		18

### 年代別構成

	20代	30代	40代	50代	60代~
学習	1	9	6	2	13
土曜		6	3	4	2

## 7. 取組を継続する中での新たな問題点や課題

- ・ボランティアさんの資質の向上をしていくこと。(守秘義務やマナーなど)
- ・教科担当グループ制、保護者の該当学級担当配置の是非について。
- ・活動対象の学級の先生との事前、事後打ち合わせの時間が上手く調整できず時間設定が上手くいかなかった。
- ・保護者、地域への活動の周知徹底不足。

## 8. 問題点や課題を解決するために工夫や改善されたこと

- ・ボランティア研修会で学校学習ボランティアの基本を学び場面作り。ボランティア連絡会を開催してボランティアさん同士の意見交換、ボランティアさんと学校との活動の振り返りの場の提供。
- ・年間活動予定表づくり、教科担当グループ制、保護者・家族の担当配置については保護者・家族の該当学年への配置は基本しないなど工夫。
- ・活動対象の学級の先生との事前、事後打ち合わせの時間確保のために休み時間などにボランティアルームを最大限活用。活動ごとのマニュアル作成。
- ・ホームページや学校だより、コーディネーターだより(ボランティアさんの声などを保護者や地域に届けていき理解を深めていく)などでの広報活動。PTA総会、参観日などでの事業説明。



児童との対面式の様子



ボランティア連絡会の様子

## 9. 取組を通して変容してきたこと

- ・取り組みについて地域の人たちの話題になる場面が多くなった。このことにより学校への関心度が深まった。
- ・学校が学校教育の場だけでなく地域の人たちの教育の場、コミュニティーの場であることの認識が地域の中に生まれたこと。
- ・子どもたちが地域の大人たちと会話する場面ができ、地域の情報を共有できるようになった。

## 10. 目指していきたいこと

- ・ボランティアのみなさん(地域住民)の持っている知識・特技・技能を学校教育に活かしていくことが、地域全体の生涯教育の場になることを実感してもらえるような活動にしていくこと
- ・人づくりが地域づくりに繋がるようにコーディネーターがつなぎ役になる
- ・ボランティアさん(地域住民)の自主的な活動になるような仕組みづくりにつなげていく
- ・学校と地域が協働して子どもの育ちを支援していくキーワードは「共に学ぶ」。学校教育の場面に生涯教育が入り込む形でスタートした事業ですが、生涯教育という大きな括りで、子どもも大人も共に学ぶことを中心に考えていく場面をたくさん作れば良いと思う。